

## その二

私は有限会社磯部組で技術部長という職についています。部長といっても、小規模企業のことです。社長以外の役職名はニックネームに毛が生えたようなものです。基本的に土木技術者であると考えてもらって結構です。わが社があるのは、高知県安芸郡奈半利町。各種の統計データが示すとおり、最貧県のひとつであるところの高知県のなかでも、東部は、西高東低などと呼ばれているように、経済的に恵まれた地域ではありません。そんな貧しい地方の縮図であるかのような高知県東部で、創業以来50年以上にわたって、ほとんど公共土木一筋に営業してきました。自社で重機を持ち、作業員を雇用し、専門工事以外はそのほとんどの工事を直営でこなす。そんな日本全国どこにもあるような小さな地場建設業がわが社です。高知県の公共建設工事の発注量が、ピーク

時との比較で3分の1程度に落ち込んでいるのに比例して、わが社の完工高も全盛期の4割から5割程度になっています。3割ほどに落ち込んだこともありましたが、何とか盛り返しています。直近の完工高は約3億6000万円ぐらいなのですが、平成6年から3年間は、私ひとりで学校を出たばかりの若手ひとりを通して、9億円程度をこなしていたのを考えると隔世の感があります。

そんな私が、ひよんなことから「三方良しの公共事業改革」といったものに関わることに、全国に活動範囲を広げ、仲間を持つことになりました。

そんななかで試行錯誤の結果（今も継続中ですが）、私が考えたことや感じたことを綴っていききたいと思います。